

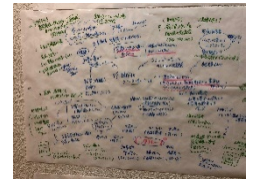
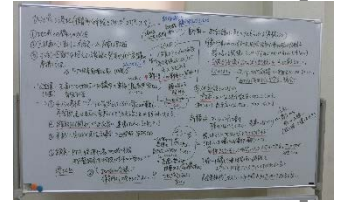
# 福祉関係団体ヒアリング 報告書

(福祉関係の6分野におけるヒアリング)

参加団体数：81名  
実施期間：【全6回】  
令和元年11月1日～12月20日

## 〔ヒアリング実施団体・実施日〕

◆港北区内特別養護老人ホーム施設長会	11月1日(金)	8名
◆ボランティア・市民活動分科会	11月15日(金)	2名
◆障害者SN分科会ボランティア・市民活動分科会	11月15日(金)	13名
◆保育所分科会	11月8日(金)	4名
◆在宅福祉分科会	11月27日(水)	9名
◆子育て関係団体	12月20日(金)	45名



## ◆港北区内特別養護老人ホーム施設長会 【高齢者施設を知ってもらうこと】

- ▶ サポーター養成講座や、介護職員のスキルを活かした地域の方向けの介護技術講座の開催ができる。
- ▶ 出来る限り身近に高齢者と接触できるような機会が出来るが良い。
- ▶ 施設見学で高齢者の生活や、自宅で生活している方達の負担を少しでも減らすという意識を持っていただければ。
- ▶ 発災時に子どもが一人で取り残された時の一時避難場所等にもなれる。



## ◆ボランティア・市民活動分科会 【人材発掘】

- ▶ 若いお父さんが集まるコミュニケーションの場があると良いのでは。
- ▶ 子ども会を頼りにしてもよいのでは。定年退職するのは70代。そうなると時間的に地域活動にはつながりにくい。
- ▶ 定期的に参加して欲しいと誘うと参加してくれない。年に1、2回だったら参加してくれる。入口をゆったりさせて活動に入ってもらいたい。
- ▶ 子育て世代の親に、地域イベントで声をかけ顔の見える関係づくり。



## ◆障害者セーフティネット分科会 【障がいの理解とつながり】

- ▶ 自治会や包括支援センターなど、様々なところと関わることはすごく大事。
- ▶ 自分から出て行くことが難しいので、声掛けやきっかけがあると嬉しいと思う。
- ▶ 緊急時も含め、やはり近所の方の理解がないといけない。実際に関わっていただく機会を作ることは大切。
- ▶ 地域のイベント(防災訓練など)に積極的に参加している。防災訓練では「一人分のスペース」の確認をするが、重度心身障害児の子は基本、寝たきりということも理解してもらいたい。
- ▶ 災害時の安全確認には課題がある。公のところで安否確認してもらいたい。
- ▶ 港北区在住の訓練会の会員と民生委員が安否確認する仕組みが10年続いている。とてもありがたいこと。
- ▶ 個人情報を守らなければならない部分はあるが、伝えないと世間に理解してもらえない。
- ▶ まだまだ「理解されていないのでは」という思いや「迷惑かけるかもしれない」という当事者側の気遣いがある。



## ◆保育所分科会【同業種・他機関との連携】

- ▶ 港北区の特徴としては子育て世帯が非常に多く保育施設も多い。連携は取れているので定期的な関りが継続できれば。
- ▶ 他業種との交流（障害施設など）もあると良い。
- ▶ 町の活性化や、もっと絆を深くするためには園の行事と町の行事のマッチングみたいなことが出来ると良い。
- ▶ お散歩の途中に子ども達と立ち話をするような方は何人もいるが、そういうことがもっと頻繁に出来ると良い。
- ▶ 保育施設が増えている中で、地域の会議に参加できたり、地域の保育所同士で話し合いができると良い。
- ▶ 自治会などには出ていきにくい。きっかけを作って誘ってもらえるとありがたい。



## ◆在宅福祉分科会【知り合うこと、助け合いの仕組みづくり】

- ▶ (ボラ) 場に来られる人はよいが、来られない方が心配。
- ▶ (ボラ) 小中学校などで福祉教育を充実させてほしい。
- ▶ (高齢者施設) 地域行事など地域ケアプラザと連携して実施できるとよい。
- ▶ 介護保険は、ある程度の介護度があればどんな場所でもサービスを受けられるが、助け合い活動は近場で助け合いをする仕組みを考えていくことが必要。しかし、必要な人に限ってそのような場には出てこない。近場で集まるところをたくさん作っていくためには空き家を活用できるようになるとよい。
- ▶ 助け合い活動は隣近所など近いところでの仕組みづくりが大切。特に高齢者は遠方まで足を運ぶことは難しいので、身近で集まれる場を作ろうと、空き家を活用した居場所づくりを進めた。
- ▶ ケアマネももっと家族に寄り添うことが必要だと思った。見学の企画や介護者の集いなど、いろんな場面で施設のことを見るような機会がもっと必要
- ▶ (ボラ) ゴミ出しで見覚えのない人がいるような時に、声掛け出来るような地域の風土を作っていければ。
- ▶ 高齢者施設を身近に感じてもらうために健康講座を実施している。施設と地域との連携を深めていきたい。



## ◆子育て関係団体

- ▶ 中高生に関わりを持ってもらいたい。学校教育から赤ちゃんに接する機会、座談会や福祉講座などの開催。
- ▶ お祭りやイベントは繋がるきっかけになりやすい。
- ▶ 子育て支援者同士の研修会や交流会があると課題を共有できる。
- ▶ 子育て支援は出産後のイメージがあるが、妊婦の時期から必要。
- ▶ ボランティアへの評価を何らかの形で制度化されると良い。
- ▶ 異世代交流のサロンがあると良い（地域の食事会なども高齢者限定でなく子育て世代も参加できる）
- ▶ 異世代交流として、中高年も得意なことが発揮できる場があると良い(高齢者が小学生に囲碁を教える等)
- ▶ 病院と地域の交流会を設けてはどうか（病院に出産後の地域情報がない）
- ▶ 転入者が区役所の窓口に来た人には区域の「ココマップ」よりエリアに絞った情報が手渡されると良い。
- ▶ ホームページや SNS で情報収集している親が多いので情報発信は頻繁にあると良い。
- ▶ 地域には若い人が活動する場がない。町会の強制感も強い。町会と若い人のつなぎ目になる役割が大切。
- ▶ 災害時要援護者の取組のように妊産婦、乳幼児家庭の把握をする仕組みがあると良い。

